

視聴覚いしかわ

Vol.18

発行／石川県視聴覚教育協議会
編集／石川県立生涯学習センター学習情報グループ
発行人／会長 山越善耀

令和4年3月25日発行

金沢市石引4丁目17-1 石川県本多の森庁舎 石川県立生涯学習センター内 TEL 076-223-9573 FAX 076-223-9585

県民映像カレッジ〈講義録〉

金沢学院大学 芸術学部准教授 越田久文

実施概要

当初9月に行われるはずだった本セミナーはコロナ禍のため、11月15日の開講となった。参加者はいずれも人生のベテランとあっていい方々である。編集ソフトがインストールされたパソコンとカメラ（中には4K対応の上位機種もみられた）を持参されての参加である。そのまま放送コンテンツを制作できる環境を、こうして一般の方が手にできるというのは、筆者が放送業務に携わっていた十数年前と比べると隔世の感を禁じ得ない。いい時代になったものである。

講義1 ビギナーからのステップアップ

今回のセミナーにあたって、人数も少ないことから事前に講義内容を決めるのではなく、参加者のみなさんのお困りごとを解決するというテーマを進めることとした。はじめに、参加者はみなさん作品制作の経験がおりとのことで、いくつか作品を拝見した。撮影・編集はひと通りこなせているようなので、プロとアマチュアの映像の違いについて言語化しお伝えすることで、作品のクオリティを上げる方法を取り上げた。

アマチュアの方の映像の特徴として、不必要な「パン」「ズーム」があげられる。筆者は大学で映像専攻の教員をしており、学生にも「パン」や「ズーム」は演出上必要とされる以外は使うべきではないと教えている。

おそらく、映像作品は常に動いてないといけないという強迫観念が根底にあるのだろう。しかし、映画やドラマを見てみるとわかるが、多くがフィックス（固定カメラ）ショットである。

実のところ、映像とはカメラを動かすのではなく、カメラの中のものを「動かす」のが真骨頂である。それは俳優だったり、動物だったり、木漏れ日の煌めきだったりするわけだが、プロはカメラフレームの中をいかに魅力的に動かすかを考えている、ということをお参加者にお伝えした。

アマチュアの方が「パン」「ズーム」を使うことのデメリットとして、機材の性能差があげられる。映画のパンやズーム（映画でズームはほぼ使われないが）が滑らかなのは、それなりの機材のアシストがあるからだ。アマチュアが使うハンディカムと三脚ではなかなかプロのようなカメラワークを実現するのは難しい。いってしまえば機材の差が歴然なのである。

ある状況を映像で説明したい場合、どうしても1ショットで完結したいという考えに陥りがちであるが、編集によって複数カットで状況を見せるという考えも大事である。1ショットで完結しようとするために、パン・ズームが多くなるのである。撮影時に編集のことまで考えることが自然にできるようになれば、安定したフィックスショットで見やすい映像がとれるのである。

講義2 構図と背景

構図はセンスであるとはよくいわれるが、良い構図になりやすいセオリーのようなものはある。例えば「日の丸は避けよ」とか「三分の一の法則」といったもので、人物なら視線の方向に空間をつくるとか、動くものであれば進行方向を少し空けるなどである。映画をよく見る人であれば本能的にそのような構図を作れると思うのだが、こうして格言のように言語化することで、意識的にプロが好む構図をまねることができるようになる。これだけでも作品のクオリティは向上するはずである。

構図におけるプロとビギナーの最も大きな差とは、背景に対するこだわりである。プロにとってはメインの被写体である女優・俳優をフレームのどこに収めるのがベストかはほぼ瞬時に判断できる。多くの時間は背景をどう作るかに費やしている。

ここでいう背景とは、色味や場所以外にボケ（被写界深度）も含んだ総合的なものである。人が映像を見て映画の感じる要素は多くの場合この被写界深度の使い方である。実際に幾つかの映画から適当にシーンを選んで受講者に見てもらい、ニュースの取材映像との背景の作り方の違いを確認してもらった。

受講者のカメラは被写界深度をコントロールできるタイプのものではなかったため、講義だけになってしまったのは残念であった。

講義3 撮影実習

セミナー会場のある本多の森地区は、その名の通り緑豊かな所なので、受講者のカメラを使って撮影実習でセミナーを終えることとした。作品テーマは今日のセミナーが行われた本多の森ホールと周囲の風景とした。

ホールは大きな建物で全景を捉えることは困難である。セミナー前までは、ロングショットでパンすることで全景を捉えようとするところだが、受講者は講義1で得た学びを活かしてロングショットとホールの名前の石碑のアップという2カットでホールの大きさを表現することを選んだようである。構図はホール真正面ではなく、円形のホールが一番映える場所から撮影するなど、講義の成果が見られたようである。隣接する公園で見ごろの紅葉撮影や歩道の並木の奥行きを感じさせる撮影方法などをアドバイスして、セミナーは終了となった。

最後に

普段は映像製作者を目指す若者を指導している筆者だが、純粋にカメラを駆使して自己表現する受講者の真摯な姿に感銘を受けたことを申し添えて講義録としたい。

令和3年11月15日開催

令和3年度石川県視聴覚教育協議会の活動について

石川県視聴覚教育協議会は、本県の視聴覚教育の振興発展に寄与することを目的とし、県及び市町教育委員会の視聴覚教育担当部局をもって組織され、視聴覚教育に関する研究奨励及び指導者研修、学習情報の交換のための事業等を行っています。

令和3年度の活動内容を紹介します。

令和3年度理事会・総会

令和3年度 役員一覧

会 長	山越 善耀	石川県立生涯学習センター館長	監 事	善家 水郷	金沢市
副会長	古矢 孝之	珠洲市	"	寺師あずさ	津幡町
理 事	川端 夕希	川北町	参 与	清水 茂	石川県教育委員会生涯学習課長
"	出口 稜人	野々市市	事務局	事務局長	石野 周 生学セ・学習情報グループリーダー
"	北野 勝之	中能登町		事務局員	谷内 明 生学セ・学習情報グループ
"	松原 久尚	輪島市		"	島村 守一 "
"	上坂 律人	石川県教育委員会生涯学習課			

今年度の理事会・総会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、昨年度に引き続き文書方式でそれぞれ行い、令和2年度事業・決算及び令和3年度事業計画・予算案が原案どおり承認されました。

情報技術活用研修会

各市町において実施される、「IT講習」等の情報技術活用を目的とする研修会です。

令和3年度は、次の2市で実施されました。

実施主体	研修会名(内容)	開催日(期間)	場 所	受講者数(延べ)
小松市	初めてのパソコン教室	令和3年5月19日～ 令和4年2月16日	小松市 芦城センター	135人
野々市市	アニメーションづくりワークショップ (パソコンでパラパラまんがに挑戦!)	令和3年8月26日	野々市市 情報交流館カメラ	7人

ICTセミナー

当協議会が、各市町視聴覚教育担当職員などを対象に行う講座です。

(1)「オンライン会議のためのZOOMの基本操作講座」

日 時：令和3年10月27日(水) 13:30～16:30

会 場：県立生涯学習センター まなびすとルーム

講 師：Officeアシスタ代表 山川 広美 氏

参加者：5名

コロナ禍で急速に普及しつつあるZOOMの基本操作を、スマートフォンを利用して学びました。参加者からは、定員が少数で機器操作に不慣れな参加者にも説明が行き届いて良かった。時宜を得た講座であり基礎から学ぶことができ大変勉強になった、今後活用したい、などと好評でした。

(2)「SAVSで創る令和の公共交通サービス」

日 時：令和3年11月4日(木) 14:00～15:30

会 場：県立生涯学習センター 教室

講 師：金沢工業大学工学部情報工学科 准教授 佐野 渉二 氏

参加者：8名

ICT技術を活用した社会はこれからどうなっていくのか、ICT技術の活用事例として、タクシーのようにどこでも乗り降り可能で、バスのように乗合を許容する新しい公共交通サービスについて講演いただきました。少子高齢化で存続が危ぶまれている公共交通サービスですが、その解決のカギの一つがICT技術の活用であることを学びました。



「SAVSで創る令和の公共交通サービス」より

※8月6日実施予定の「自分の苦手を自分で解決！～ICTによるコトづくり～」は、新型コロナウイルス感染拡大の状況下で受講希望者が僅少であったため、中止としました。

県民映像力レッジ

広く一般県民の皆さんに、映像作品制作に興味をもってもらい、ビデオの撮影・編集の技術を学んでいただく講座です。(石川県民大学校 教養講座)

場 所：県立生涯学習センター教室
 講 師：金沢学院大学芸術学部 准教授 越田 久文 氏
 開催日：令和3年11月15日(月)
 時 間：13:30～16:00
 参加者：7名



講師の金沢学院大学芸術学部准教授越田久文氏から、ビギナーが陥りやすいカメラワークの紹介など、プロに近づく撮影技術について講義いただきました。後半では教室から出て会場の生涯学習センター周辺の公園等を散策しながら具体的な撮影技術の指導をいただきました。

受講された皆さんが講座の成果を発揮し、地域の映像記録に力を発揮され、多くのビデオ作品が制作されることを期待します。

全国大会について

第25回視聴覚教育総合全国大会・第72回放送教育研究会全国大会合同大会

令和3年度の全国大会は新型コロナウイルス感染拡大防止が求められる中、昨年度に引き続きオンラインにより、令和4年1月22日に開催されました。

<生涯学習関係の実践発表・セミナー>

1. 実践発表

(1) 千葉県総合教育センター：センターで保有している放送済みである県教育番組の映像資料(16ミリフィルム等)をDVDに複製し、県内の学校や教育機関に貸出できるようにした例の報告がありました。平成23年に著作権処理について千葉テレビ放送(株)との間に覚書を締結し、9年間で4,225本をDVD化したとのことです。

(2) 北村山視聴覚教育センター(山形県)：自作視聴覚教材について、これまでのDVD貸出に加えて、公式YouTubeチャンネルを開設し公開したことで、これまでは管内の個人・団体に限られた利用であったが、全国から視聴が可能になったとのことです。

2. セミナー「ビデオテープ教材の今後を考える～令和2年度調査研究を踏まえて～」

再生機器の製造が平成28年に終了し、ビデオテープの寿命が20～30年といわれている中、ビデオテープ教材の取り扱いが今後どうなっていくのかについて意見交換等が行われました。令和2年度実施の調査研究では、①メンテナンスを続けながら活用を続ける。②保存を優先し利用を制限していく。③デジタル化による活用と保存。④特に手は打たず使える間は使う。の4つの方向性が示されています。意見交換では、③が望ましいが、視聴覚ライブラリーは図書館のように著作権法第31条を根拠とした複製を行えず著作権者の許諾が必要であること、又費用の面からも④にならざるを得ないとの意見が多く出されました。



令和3年度（第52回）いしかわ映像作品コンテスト

共催：石川県教育委員会
 後援：石川県小中学校視聴覚教育研究協議会
 石川県高等学校視聴覚教育研究会
 石川県社会教育協会
 石川県公民館連合会

募集期間：令和3年10月1日(金)から
 令和4年1月28日(金)まで

審査会は、2月8日(火)に県立生涯学習センターにて行われました。3時間に及ぶ審査の末、右のとおり各賞が決定しました。

授賞式は、3月6日(日)14:00より、石川県本多の森庁舎2階第3会議室にて行われました。

5名の出席者のもと、石川県教育委員会、石川県社会教育協会、石川県公民館連合会、石川県視聴覚教育協議会からの各賞のうち、出席した受賞者への賞状授与が行われました。

終了後、講評並びに最優秀賞・優秀賞受賞作品の上映を行い、式は終了しました。



受賞された皆様、おめでとうございます。

☆☆☆ 審査講評 ☆☆☆

令和3年度石川映像コンテストに10作品を超える応募がありました。コロナ禍で取材の制限も多い中、多くの応募があったこと、審査員一同うれしく思います。

特に中学生、高校生のグループ応募が多数あり、石川県の映像文化の裾野が広がっていることが感じられます。スマートフォンなどIT機器の浸透により映像制作が身近になったこと、インターネット映像の浸透により制作のモチベーションが高まっていることが相まって、年々作品のレベルが上がっていることは間違いありません。

最優秀賞には、小屋忠男さんの「真冬に和傘咲く」が選ばれました。小屋さんは郷土の文化・自然を記録し、文化的資料価値の高い映像を作っておられます。和傘の色彩が美しい作品に仕上がっています。

その他、優秀賞、奨励賞の作品はもとより、いずれ劣らぬ力作であったことを申し述べて講評といたします。

審査委員長 越田久文（金沢学院大学准教授）

審査委員

審査委員長	越田 久文	金沢学院大学 芸術学部芸術学科准教授
審査委員	岡野 重和	元石川県公民館連合会 副会長
"	山越 善耀	県立生涯学習センター館長

審査結果

石川県教育委員会賞(最優秀賞)	真冬に和傘咲く	小屋 忠男 (金沢市)
石川県社会教育協会賞(優秀賞)	鶴高PV2021	石川県立鶴来高等学校
石川県公民館連合会賞(優秀賞)	特別報道番組 NEWS K J H	かほく市立河北台中学校
奨励賞	思い出を語る	藤平田 友市 (金沢市)
"	金沢泉丘高校学校紹介	石川県立金沢泉丘高等学校 放送部
"	きまっし!金沢	金沢市立港中学校 放送部二年

===== 石川県立生涯学習センターからのお知らせ =====

石川県生涯学習情報提供システム「あいあいネット」で動画配信中！ ぜひごらんください。

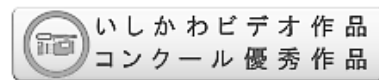
「昭和のいしかわ」を知る12作品



ふるさとモット学び塾



優秀作品を公開(一部)



☆「あいあいネット」へのアクセスは… <http://iinet.pref.ishikawa.jp/>もしくは で

(PC・スマートフォンでごらんください)

お問い合わせ先 石川県立生涯学習センター学習情報グループ TEL 076-223-9573 FAX 076-223-9585